

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4073400295 | | |
| 法人名 | 有限会社 笑苑 | | |
| 事業所名 | グループホーム 笑苑 | | |
| 所在地 | 〒818-0122 福岡県太宰府市高雄1丁目3664番258 092-918-0808 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年07月14日 | 評価結果確定日 | 平成24年08月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れたわが街で人生の最終章を自分らしく心豊かに」を理念に開設当初よりターミナルケアに取り組んでいます。また、運営推進会議を軸に地域での相談業務や多くの地域活動への参加を行い地域とのかかわりを大切にしています。日常生活では、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの利用者様の思いを汲み取り、全員で情報を共有し、自己決定ができるよう支援しています。また、ご家族にも特別な制限等設けず、気軽に来て頂けるようコミュニケーションを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学問の神様太宰府天満宮近くの、国道沿いで交通便の良い住宅地に、デイサービス、有料老人ホーム併設の、2階建て木造住宅のグループホーム「笑苑」がある。看護と介護に精通した代表の介護に対する熱い思いを、職員全員が理解し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスを実践し、家族からの信頼は深いものがある。かかりつけ医と、協力医療機関による利用者の健康管理は、24時間体制で万全で、利用者の重度化による看取りに繋がり、現在まで数名のターミナルケアを実施し、職員間のチームケアを活かした介護は、職員一人ひとりの自信と、達成感に結び付いている。また、自治会に加入し、町内清掃や、防犯パトロールに、利用者職員が参加したり、ホームの夏祭りに、地域の方が参加し、活発な地域交流が始まり、地域福祉の拠点として期待される「笑苑」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成 24年07月30日 | | |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関、フロアー入口に理念を掲示するとともに、毎朝の申し送り時に唱和し、日々のケアに活かしている。 | 「住み慣れたわが街で人生の最終章を自分らしく心豊かに生きていただくお手伝い」というホーム独自の理念を毎朝唱和し、意識付けして、「自分の親だったらどうするか」を常に考え、家族の一員として寄り添い、利用者が自分らしく生きる姿を支えていく努力をしている。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 地域の自治会に加入し、地区の清掃や防犯パトロールに参加するなど交流を深めている。 | 地域のクリーンデイの清掃活動や防犯パトロール、地域の夏祭りに積極的に参加し、ホームの夏祭りや10周年感謝の集い等には、地域の方や家族にたくさん参加してもらおう等、地域に信頼される事業所として活発な地域交流が始まっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族会や運営推進会議等で高齢者特有の疾病や認知症に関して情報提供し、相談等にも積極的に応じている。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎に開催し、事業所からの報告をすると共に地域で生活をする上での身近な取り組みや社会活動に関することなどを話し合い、その意見をサービスの向上に活かせるよう努めている。 | 2ヶ月毎に定期開催し、ホームの状況やヒヤリハット、活動予定の報告を行い、地域行事の情報を受けたり、地域での防災対策や活動について話し合う等、ホーム内に留まらず地域での取り組みについて、広い視野での話し合いが行われ、有意義な会議となっている。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護保険課に限らず、福祉課や社会福祉協議会との連携も密にしている。 | 「垣根を越えてやっていかないと認知症は支えられない」と感じている施設長が、地域密着型事業所として地域の核となり、認知症に関する講師派遣や、相談事業、徘徊ネットワーク構築に向けて市や社会福祉協議会等と連携を図り取り組んでいる。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルを作成し、ケア会議において具体的な身体拘束にあたる行為について話し合いをしている。 | 身体拘束廃止マニュアルを整備し、拘束が利用者に与える影響をいつも話し合いながら職員全員が理解し、「利用者本人が過ごしやすいように」を一番に考え、身体拘束をしないケアの実践を目指している。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員同士で行動や言動に注意し合い、見過ごされることがないように防止に努めている。職員研修やケア会議においても話し合う機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度を活用される利用者がおられ、成年後見制度について理解し、今後も必要に応じて支援できるよう努めている。 | 社会福祉協議会と連携し、「ほのぼのサービス」等、制度活用の利用者がいる。資料やマニュアルを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。また、制度の活用が必要な時、職員が家族に説明し、関係機関への橋渡しができる体制がある。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に契約書、重要事項説明書のひな形を交付し、十分な時間をとり説明をしている。改定等の際は事前に書面でお知らせし、納得していただいている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や家族の面会時には近況を報告する等の時間を持ち、意見や要望を気軽に話せるような関係づくりに努めている。意見や要望について検討し、サービスの向上に努めている。 | 運営推進会議に家族が交代で参加し、他にも意見箱の設置、家族の面会時、電話や郵送による報告、家族会の開催等、家族の意見を聴き取る機会を多く作り、出された意見や要望等を出来るだけホームの運営に反映させている。 | |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やケア会議の場だけではなく、日々職員からの意見、提案を聞き入れ、運営に活かしている。 | 職員会議と別にカンファレンスを月2回開催し、職員全員が参加し、活発に意見、提案を出し合っている。「良いと思ったらやってみて」という施設長の思いのもと、職員の自主性を大切に、出された意見は出来るだけ運営に反映させている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況や能力等から公平に判断し、職員の意識の向上に努めている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用にあたっては、資格保持より考え方や人間性を重視している。また、常勤、非常勤にかかわらず研修会に参加する機会を設けたり、資格取得の支援も行っており、職員が働きやすい環境づくりに努めている。 | 職員の技術力や自主性を高めるために、外部、内部の研修参加を促し、資格取得を奨励し、施設長の指導やアドバイスで職員の質の向上に取り組んでいる。また、職員の採用は、人間性や協調性を優先し、年齢や性別の制限はしていない。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 認知症介護実践者研修等の受講を通じて話し合い、啓発活動に繋げる努力をしている。 | 外部の研修会に参加して報告書を作成し、全員に閲覧し理解したうえで、利用者の人権を尊重するための取り組みがある。また、毎日理念を唱和し、理念にある利用者のその人らしさを考える事が、人権教育啓発活動に繋がっている。 | |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験、能力等を把握し、積極的にスキルアップを図ることができるような環境を整えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH協議会や福岡医療介護ネットワーク等の研修会への参加、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面接時より、利用者、家族の意見に耳を傾け、体験入所等を取り入れながら、安心できる馴染みの関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 今までの経過や家族のいろいろな感情を受け入れ、いつでも相談、話し合いができるような関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時から利用者と家族の思いや希望に対して何が必要なかを見極め、体験入所や併設の居宅支援事業所、他のサービス機関との連携も含めた対応に努めている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 開設当初より利用者は家族という考え方で、精神的な部分では常に学び、支え合う関係づくりを心がけている。 | | |
| 21 | | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族には施設の行事や家族会に参加して頂き、交流の機会を多く持てるように支援し、意見や要望を受け入れ、共に利用者を支えていく関係づくりに努めている。 | | |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族・知人には自由に面会して頂き、外食やお墓参り等馴染みの関係が継続できるよう個別に支援している。 | 住み慣れた地域の友人知人、遠い親戚等の面会があり、利用者の喜びは大きく、昔を取り戻す時間でもある。また、ホーム入居後の、利用者同士、職員等と新しい馴染みの関係作りも大切にしている。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活やレクの中で協力できる場面を設定し、見守り、声かけを行い、利用者同士の関係が築けるよう配慮し支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|---------------------------------|----|---|--|---|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も家族との交流があり、相談や問い合わせには誠意をもって対応している。 | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で利用者の表情や仕草から思いを汲み取り把握に努めている。得た情報をケア会議において職員全員が共有することで本人本位の検討に努めている。 | 職員は、利用者の希望や意見を把握し、出来るだけ実現できるよう努力をしている。また、意向表出が困難な利用者に対しては、職員が寄り添い、利用者の表情、仕草から意向を汲み取ったり、家族に相談しながら検討している。 |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からの情報や日々のかかわりの中から今までの生活歴や利用者らしい暮らし方の把握に努めている。 | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ること、得意とすることを汲み取り、申し送り等で一人ひとりの現状を把握できるよう努めている。 | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を活用し、利用者、家族、主治医、看護師等の意見を踏まえ、計画作成担当者が3ヶ月毎に作成している。また、利用者、家族の希望や状態の変化に応じて見直しを行っている。 | 介護計画は、利用者や家族の意見を取り入れ、関係者で検討し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化に伴い、家族と連絡を密に取りながら方針を共有し、状態変化に応じてその都度介護計画の見直しを図っている。 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護記録には、日々のケアを具体的に記録し、身体状況や体調の変化を早期に発見できるようにしている。また、情報を共有することで介護計画の見直しにも活かしている。 | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者、家族の状態や様々な要望に柔軟に対応できるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事への参加やボランティアとの交流で豊かな生活を支援している。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、利用者、家族の意向を尊重している。受診には同行し、日頃の身体、生活状況について情報を提供し、適切な医療が受けられるように支援している。 | 利用者や家族の希望を取り入れ、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関の定期的な往診と看護師である施設長の細やかな観察、職員の見守りにより、関係者全員が情報を共有し連携しながら、利用者が安心して適切な医療を受けられる環境を整えている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設長が正看護師であり、健康管理に努めている。また、主治医や訪問看護師との連携を密にし、必要に応じて他医療機関との情報交換も行っている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院医療機関への情報提供や入院中の面会により安心して治療が受けられるにしている。また、退院後の生活がスムーズに再開できるよう医療機関内の地域連携室との情報交換を行っている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期の方針については、契約時に説明し、状態にあわせて家族に状況報告と意思確認を行っている。利用者、家族、主治医との話し合いにより、関係者全員で方針を共有しながら出来る限りの支援をしている。 | 看取りの指針を作成し、契約時に説明を行い、家族の考えを常に確認しながら方針を共有している。関係職員の役割分担についてマニュアル化し、「ターミナルと言っても普段どおりの事をしていくだけ。」という施設長のもとで、これまで多くの看取りを経験してきた。「出来る限りの支援をしていく」というホームの姿勢は、利用者、家族の大きな安心に繋がっている。 | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルによって急変や事故発生時の基本的な対応を明確にしている。応急手当や初期対応については研修会や勉強会で実践に活かせるよう支援している。 | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 夜間を想定しての避難訓練を隣接する関連施設と合同で実施し、協力体制の確認を行っている。 | 年2回、避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練では、併設事業所の3人の夜勤者と場面場面を想定した協力体制をマニュアル化し、非常災害時に備えた体制を確立させている。また、玄米貯蔵庫に米1年分、発電機3台を準備し、井戸水と合わせ、地域に開放する事も検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 馴染みの関係が馴れ合いのかかわりにならないように、常に職員一人ひとりが利用者の気持ちになって接し、親しい中でも利用者の誇りやプライバシーを意識した対応に努めている。 | 職員は、利用者を敬愛し、プライドを傷つけない優しい声かけや、さりげない誘導で、特にトイレ誘導、入浴等、羞恥心に配慮した介護サービスを実践している。また、個人情報の記録、保管や守秘義務についても職員一人ひとりに徹底されている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何でも言える雰囲気をつくり、思いや希望を表現できるよう働きかけ、その思いや希望を重視し、職員本位にならないように心がけている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、その日その時の状況で、できる限り利用者の希望や意思にそって支援している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的な訪問美容を利用し、外出時や行事等に合わせてさりげなく化粧や整髪等の支援をしている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の食欲や嗜好等を考慮し、旬の食材を使った料理や精米したてのご飯を提供している。また、一方的な介助にならないように一人ひとりのペースにあった支援をしている。 | 食事は、利用者の好みや健康状態に配慮し、料理好きな職員が旬の食材、精米したてのお米を使い、心をこめて作っている。同じテーブルで利用者と職員が談笑しながら食事し、食事が楽しみなものになるよう支援している。また、月1回のお茶会では利用者は背筋を伸ばし、お抹茶と和菓子を頂き、豊かな時間を味わっている。 | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量を把握し、利用者の嗜好や嚥下能力により個別に対応している。水分に関しては、毎食時、服薬時、おやつ時以外にも入浴後、体操後には確実に水分補給を行っている。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、職員が介助、見守りをし清潔を保持している。また、定期的に歯科医師及び衛生士が来所し、指導・管理を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンにあわせて誘導し、夜間はポータブルトイレを活用する等自立に向けた支援を行っている。 | 職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレでの排泄に向けた支援をしている。トイレでちょっと腰を上げる力の維持のためにも、日常的に歩行訓練を行い、トイレでの排泄の取り組みを実践している。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、薬に頼らず運動、腹部マッサージ、水分補給や献立を工夫する等の予防に取り組んでいる。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回を基本に実施しているが、利用者の体調、希望に添うよう柔軟に対応している。体調不良で入浴できない場合は、足浴や清拭等状況に応じた支援をしている。 | 入浴は週3回であるが、その人に合った入浴方法を大事にしながら、利用者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。「次に待っている人がいる」と思うとゆっくり入れないため、ゆとりを持ってゆったりとした支援を心がけている。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者一人ひとりの生活習慣や心身の状態にあわせて日中の生活リズムをつくり、夜間気持ちよく眠れるよう支援している。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情で作用、副作用を把握し、症状や全身状態の変化にも注意している。また、薬の変更等に関しては申し送り簿で職員全員が確認できるようにしている。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴やできる力にあわせ、得意なことを活かした役割をもち、張り合いのある生活を支援している。 | | |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や体調を考慮し、散歩や外気浴等利用者の希望に添った外出支援に努めている。 | 利用者の重度化に伴い、外出が困難な場合もあるが、出来るだけ利用者が五感で季節を感じる事が出来るように工夫を重ねている。車椅子の方も近所に散歩に出かけたり、煙草を吸いに外に出る等、ちょっとした外気浴を心がけている。また、桜やツツジ、菖蒲、紫陽花等、季節のお花見は利用者の楽しみになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望する利用者には少額のお金を持って頂き、事業所が管理している方も買い物時は、できるだけ自分で払って頂いている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 事務所の電話を使っていつでも家族や知人等へ連絡できるよう支援している。 | | |
| 54 | 2 2 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節にあった飾り付けや金魚等を飼育し、台所からの音や匂いを感じ、居心地良く過ごせるような家庭的な空間づくりに努めている。 | 家庭的な雰囲気の建物の2階部分に位置し、熱帯魚や金魚が泳ぐ水槽を覗きこみながら廊下を歩く利用者の姿は生き生きしている。台所から響く包丁の音等、生活音に囲まれた暮らしを大切に、畳の間があるリビングには、利用者一人ひとりの居場所があり、家庭的な居心地の良い共用空間になっている。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにはソファを設置し、テレビを鑑賞したり、各々自由に過ごせるよう配慮している。 | | |
| 56 | 2 3 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の馴染みの家具や使い慣れた好みものを配置し、居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。 | 利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や小物等持ち込んでもらい、落ち着いた雰囲気でゆったりと過ごせるよう支援している。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下・トイレ・浴室には手すりを設置し、安全に身体機能が活かせるような環境整備をしている。また、見守り・声かけ・誘導をさりげなく行い、できるだけ自立した生活が送れるよう努めている。 | | |